

八王子市立第三小・第四小・第十・大和田小学校 子どもの囲碁教室だより

86号 2023年12月

編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com

ブログ <https://naritas.jp/wp1/>

八王子囲碁連盟 <https://hachigoren.com>



ポインセチア

◆ 12月の子どもの囲碁教室の日程

- ・ 第三小学校：12月5日、12日、19日
毎週火曜日 2時30分～ 四階 算数教室
- ・ 第四小学校：12月4日、11日、18日
毎週月曜日 2時30分～ 二階 ひらめき教室
- ・ 第十小学校：12月1日、8日、15日 2時30分～
毎週金曜日 一階 家庭科室
- ・ 大和田小学校：12月6日、13日
毎週水曜日 午後2時30分 二階 図書室

◆ 自ら学ぶ力を

〈不登校を前向きに考える〉

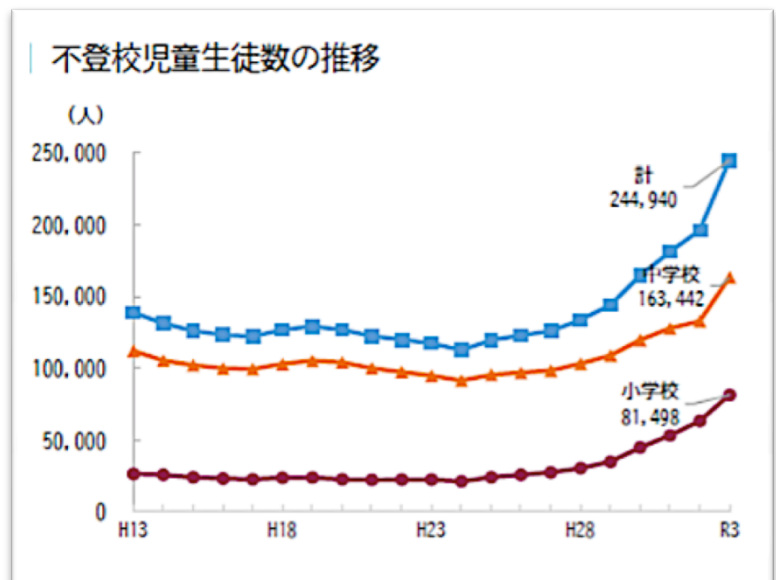
最近話題となっていることです。学校を居場所として選ばなくなった、あるいは選べなくなった子ども達を一応不登校生とか登校拒否生と呼んでおきます。不登校の定義はありますが、、、こうした子どもは年々増加し、令和3年で小・中学校で不登校状態の子どもの数は244,940人で、前年度が196,127人だったので48,813人増加しています。

不登校生の推移をグラフで見ますと平成13年から平成23年にかけて、不登校の子どもの数は減っていました。しかし、それ以降は徐々に上昇していることが分かります。それには明確な理由があると思いま

す。それは学習指導要領の改訂という教育行政の結果です。

平成14年頃から全人的な「生きる力」を育成すると謳ったのが学習指導要領です。そこから平成22年代初期にかけて生きる力をはじめとして各教科で「調べ学習」など思考力を身につけることを目指した学習内容が多く盛り込まれます。これが「ゆとり教育」です。それに呼応して「総合的な学習の時間」が設けられたのです。こうしてゆとりある学校を目指すこととなります。

しかし、国際学力調査の結果などからさ



らなる学習指導要領の改訂があり、平成24年を境に、「脱ゆとり教育」へと転換し、授業時間の10%増や必要に応じて土曜日授業を復活することになります。「外国語活動」も導入され、「総合的な学習の時間」が霧散していきます。このような転換が、不登校の子どもの数の増加を促していきます。「ゆとり教育」から「脱ゆとり教育」への転換は不登校という地図を変えていきます。

子どもにとって授業時間が増えることは「短時間で覚えることが増える」ということです。勉強が得意な子どもにとっては短時間で多くのことを吸収できるでしょうが、マイペースな子にとっては覚えられないことがどんどん増えてしまいがちになります。子どもによって脱ゆとりをどう感じるかです。それが結果的に学力の差となって現れると考えられます。このように、勉強の不得意に関しては少なからず個人差がでてきます。脱ゆとりの波が子どもにとって大きな負担となっているのです。

授業時間の増加は、授業の準備をする教師にも大きな負担となります。勉強についていけない子を教師が把握しても、忙しい教師はどこまで個別に対応できるかです。数時間分増えた授業の準備のために教師はプライベートな時間を奪われます。勤務評価や競争的な環境にあって身体的にも精神的にも負担を感じます。子どもの不登校と同時に教師の不登校やバーンアウトが起こるのも当然といえまし

よう。

〈不登校は無気力か〉

不登校という現象について、誤解されている見方があります。それは、文部科学省からの「小・中学校で不登校状態の児童生徒の半数近くの要因が「無気力・不安」である」という発表です。歪んだ教育行政や学校の現状を棚に上げて、不登校の原因を子どもの無気力や家庭の責任に転嫁する姿勢です。このような見解は許されません。不登校生が増加することを指摘しながら、やれスクールカウンセラーを増やすとか、相談窓口を充実するなどの付け焼き刃のような対応も問題です。学校に週一、二度しかこないスクールカウンセラーは子どもに教師にもなんの役にも立ちません。不登校の根本的な原因はなにかを問うべきなのです。

「無気力・不安」というのは、大人や教師の見方です。子どもがどうして「無気力」になったり不安になるのかを考えることが大事です。無気力というのは、大人の選挙行動と対比するとわかりやすいです。無投票の人々を指して、果たして政治に無関心とか無気力だと言えるでしょうか。むしろ現在の政治に失望し、投票意欲がなくなることが外側からみれば無気力に見えるだけなのです。無気力なのではなく積極的な投票拒否行動なのです。不登校という行為も全く同じなのです。不登校を白い眼で見てはいけません。

